



第二



中央



寿台



梓川

地区生活支援員 活動事例集

(第2層生活支援コーディネーター)



四賀



里山辺



波田

令和元年度に配置された7地区の活動の一部を紹介致します。

● 目次



| | |
|--------------------------------------|----|
| 1 地区生活支援員とは..... | 1 |
| 2 活動紹介 | |
| ● 第二地区 | |
| 町会の中で気楽に集まれる場所をつくりたい..... | 2 |
| ● 中央地区 | |
| 見えてきたニーズ、 孤立しがちな高齢者と地域のつながりを..... | 4 |
| ● 寿台地区 | |
| 既存事業を再検討..... | 6 |
| ● 里山辺地区 | |
| 介護予防で元気な地域づくり..... | 8 |
| ● 四賀地区 | |
| 高齢者や障がい者の生活支援..... | 10 |
| ● 梓川地区 | |
| 地域の人々が気軽に集える居場所を拡充させよう..... | 12 |
| ● 波田地区 | |
| 世代間交流を通して刺激し合う関係づくり..... | 14 |

地区生活支援員(第二層生活支援コーディネーター)とは ～生活支援体制整備事業～

介護保険法に基づく生活支援体制整備事業のうち、地区での住民相互の助け合いを支援する第2層生活支援コーディネーター業務を松本市社会福祉協議会が松本市から受託しました。松本市では第2層生活支援コーディネーターのことを「地区生活支援員」と呼びます。

◆平成31年度より地区の地域づくりセンターに段階的に配置

平成31年度配置7地区(第二、中央、里山辺、寿台、四賀、梓川、波田)
令和2年度配置9地区(城北、白板、庄内、松南、和田、笹賀、寿、本郷、松原)
令和4年度末までに、全地区配置予定

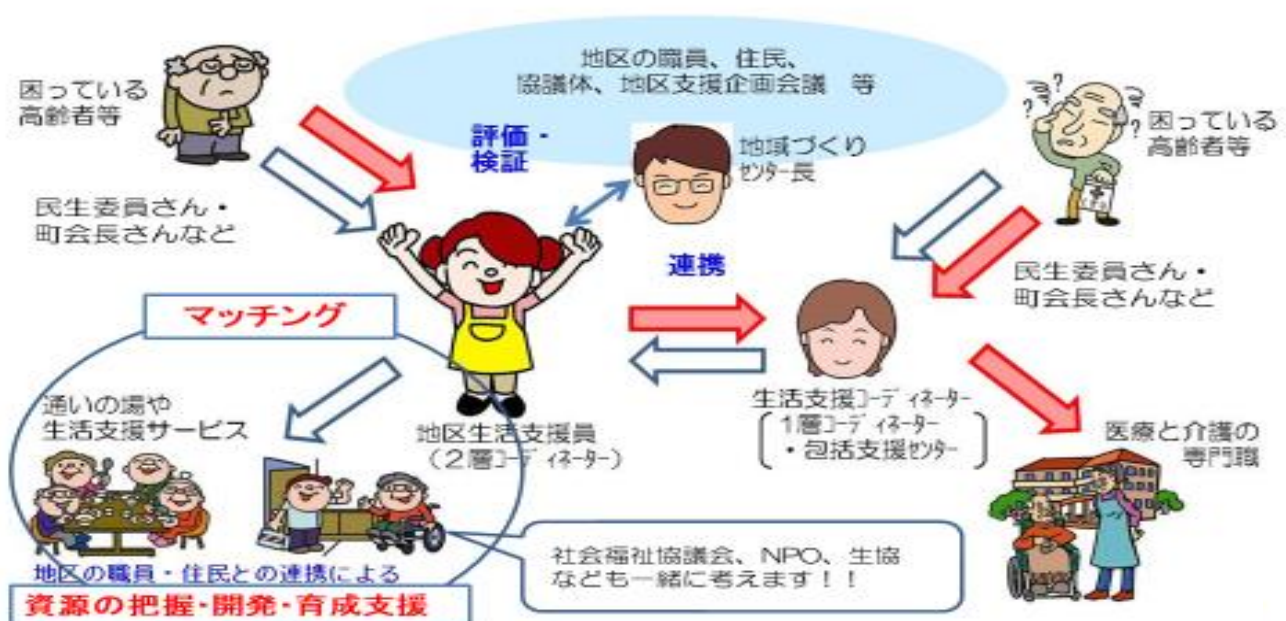
◆「地区生活支援員」(第2層生活支援コーディネーター)の業務

地区生活支援員は、高齢者の方等が地区で元気な生活を送り続けられるように、地区の住民の方や関係団体(地域包括支援センターや地域づくりセンター等)と連携を取りながら、介護予防、通いの場、生活支援サービス等を推進します。

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>固有の業務</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○地域の支援ニーズとサービス提供主体のマッチング ・通いの場や生活支援サービスと困っている高齢者等をつなぐ ・サービス提供者からの相談を受け、活動が継続できるよう支援を行う |
| <p>地区の職員や住民と連携して行う業務</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○地区内における関係づくり ○地区課題や資源の把握と目標設置 ○サービスの立ち上げ ○伴走的支援 ○評価・検証 |

◆地区における地区生活支援員の役割と連携図

地区生活支援員の役割



第二地区

■世帯数：1,416世帯 ■人口：2,546人 ■高齢化率：37.3%
■町会数：18町会 ■町内公民館：6町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 要介護認定を受けている方が多い
- 高齢者の5人に1人が一人暮らし
- 医療機関の充実(急性期病院1、一般病院2)
- 松本駅が近く交通機関に恵まれている
- 子供の数が少ないうえに、小中学校が無く、いくつにも分かれて通っているため育成会のまとまりがない



町会の中で気軽に集まれる場所をつくりたい

1 背景・課題

地区公民館、福祉ひろばが地区の南端にあり、北部からは遠く集まりにくい。また、町内公民館を持つ町会が少なく集う場所がない



2 主なかわり・支援内容

- 社協の補助金があることをお知らせし、サロンを開催してくれる町会を募った
- サロンへ参加し、住民の声を聴く
- サロンの内容へ協力



町会サロン活動には補助金がありますよ！

3 成果と効果



- 今までほとんど行われていなかったが、7町会でサロンが開催されるようになった。
- 集まりに出てこなかった方が開催を楽しみにしている。
- 地区内の医療法人が地区に開けた病院にしたいということで、病院で行っている講座をサロンに活用した。

年に4回テーマを決めて喫茶店に集合！公民館がないので..



✿ いつまでも元気に ✿

公民館でストレッチ体操



手作りの美味しい漬物や料理！

茶飲みが一番の楽しみ♡

4 今後の取組み・展望

- サロンが行われていない町会で開催できるように、場所探し等から支援
- 近隣町会とサロンの共同開催の検討
- サロン参加者が固定化しないよう、いろんな人が参加できる取組み
- 男性参加が少ないので、お茶だけでなく「公民館居酒屋」のような企画を地区公民館と進める
- 病院等の出張健康教室・出張健康講座を利用してサロンの内容に変化をつける
- 困りごとのある方とお手伝いしていただける方のマッチングの取組みの準備



地区生活支援員としての思い

公民館がないというところから、なかなか「居場所づくり」も難しいのが現状です。

地域の病院、お店等と協力していけたらと思います。

高齢者の多い地区ですので、担い手の育成も大事になってきます。

地域ケア会議で「サロン」を取り上げました。

町会サロンが行われていない町会の方が少しでも興味を持っていただければと思います。

第二地区 地区生活支援員 小澤麻由美



中央地区

■世帯数：1,178世帯 ■人口：2,324人 ■高齢化率：33%
■町会数：16町会 ■町内公民館：6町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 松本城を中心に北側は住宅地と松本神社、南側は金融機関・官公庁・四柱神社・商業地域を抱え利便性が高いが、各々の町会の特色が色濃い
- 大型マンションや移住者も増加し、そこに子育て世代も多く含まれる
- 地域の歴史や文化を大切にしている
- 中央地区福祉互助会（有償生活支援）がある



見えてきたニーズ、 孤立しがちな高齢者と地域のつながりを

1 背景・課題

- ①以前はひろばや公民館事業に参加していた一人暮らしのYさん。軽度認知症のため時間の認識がなく、事業に参加できなくなり、日中ひとりで過ごしているとの情報を入手した。
- ②自転車で転倒したことで腰痛を悪化させた一人暮らしのSさん。病院・商店・銀行・銭湯等への外出が困難になったと近所からの情報と同時に、本人からも外出支援の相談を受けた。

2 主なかわり・支援内容

- ①地域包括や地域づくりセンター長と認知症の方と地域の繋がり作りを相談。元民生員にYさんの相談をし、隣近所の方の協力を得て、公民館で「お茶会（認知症カフェ）」を立ち上げ、活動の伴走支援をする。
また、本人の好きなこと、やりたいことに参加するために、公民館に行くことができるように支援し、福祉互助会によるちょっとした生活支援を活用した。
- ②「自宅で自分のことは自分でやりたい」とSさんの想いを受け、地域包括や民生委員などと介護保険（福祉用具）の利用等を検討・準備、並行して町会長や包括と相談し、外出支援の担い手を探し可能な範囲で行うことにした。



3 成果と効果

- ①通いの場が出来た軽度認知症のYさんにとって「好きな事」「やりたい事」が出来ることは、記憶は失っても孤独感が薄れるのか、表情が明るくなった。また、参加協力してくれた住民同士の関係づくりも今まで以上に進み、ちょっとしたことは相談でき、頼める関係が築けた。
- ②普段隣近所の付き合いが薄いSさんの「自宅で過ごしたい」という想いを隣近所の方も共有し、各々の生活に合わせて無理のない程度の送迎と、週1回の訪問看護などのかかわりから、在宅で自分らしい生活が可能となり、以前より本人の表情が豊かになった。福祉互助会として一人暮らし高齢者の外出支援という新たなサービスの可能性ができた。



4 今後の取組み・展望

- 民生委員や町会長と情報交換し、ニーズの把握や掘り起こしを行う
- 生活支援員・地域包括支援センター・福祉互助会の周知
- 認知症の人の理解と対応方法、及び介護保険制度について学習会の開催
- 町会ごとに「歩いて行かれる距離での集まる場づくり」を支援
- 個別ケア会議に参加し、専門職との連携体制を構築する

地区生活支援員としての思い

歳を重ねるごとに横のつながりが薄くなる高齢者にとって、金銭的な問題や健康を害した時に生活が一変することはある。孤立や重症化させないために、普段から気軽にあいさつや無駄話ができ、愚痴がこぼせたり相談できたり、気にかけてくれる関係づくりが大事になると思います。

お互いの理解と関係性を育めるように住民に寄り添った支援に心掛け、住民のみなさんと相談しながら、高齢であっても出来る支え合い活動を、一緒に見つけていこうと思います。

中央地区 地区生活支援員 竹川洋子



寿台地区

■世帯数：1,402世帯 ■人口：2,877人 ■高齢化率：41%
■町会数：8町会 ■町内公民館：5町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 東西約800m南北700mの広さの住宅地区
- 8町会中4町会が市営または県営住宅地区。
- 地区内標高差30m（10階建てのビルの高さ程度）
- 一人暮らし高齢者326人。また、家族同居でも日中一人になる高齢者も多い。



既存事業を再検討

1 背景・課題

平成27年の地区住民アンケートから問題の掘り起こしを行い、いろいろな機関（町会連合会、福祉協議会、公民館、福祉ひろば等）がそれぞれ単独に行ってきた事業を、地域づくり事業として見直すことで、より良い住民支援につなげる。

2 主なかわり・支援内容

以下の3事業を、地区全体で協力し合いながら実施できるように関係者に呼び掛け、再検討を行い、より良い事業の提供に協力した。

- ①移動販売会（協力店の出張販売）
- ②街角ランチ「かたらい」（介護予防教室とお弁当を提供 食事をしながら会話を楽しむ）
- ③福祉ひろば祭りを1週間楽しめる地区事業に



3 成果と効果

- ①移動販売会を町会主催として販売の場所を提供。また、食材販売店を加えて「寿台マルシェ」と改名することで必要なものを買う」スタイルから、「買い物の時間を楽しむ」に気持ちが変わってきた。

福祉ひろばの協力を得て出張カフェも実施し、おしゃべりの場も提供できた。



②街角ランチ「かたらい」の会場は福祉ひろばを使わず、住民の慣れ親しんだ場所「ふれあいセンター」を活用した。

町会連合会の主催で「だれでも参加出来る」を前提に、福祉ひろばの協力を得てコーヒーを提供。傾聴ボランティアの協力を得て、疎外感を感じる参加者に寄り添ったサロンの場を充実した。

令和2年度9月ウイズコロナで事業を再開、好評だった弁当は持ち帰りだけとし、介護予防講座、脳トレゲーム、保健師相談と地区で拡散し始めた。「いきいき百歳体操」を組み合わせて筋力低下に歯止めをかけた。



③例年4月に行っていた福祉ひろば祭りを、「桜ウィーク」として町会連合会・公民館・福祉協議会と協力して一週間開催し、多くの方に参加を頂いた。また、特定の人々が参加しているイメージを無くし、色々な人が気楽に参加できるように工夫をした。



4 今後の取組み・展望

●ウイズコロナで行えること

ほとんどの事業が足踏みをしているが、それにより地区住民の筋力低下や心の寂しさを補う事に結び付けることが出来る事業に取り組んだり、今有る事業をウイズコロナだからこその形に変えて取り組みたい。

地区生活支援員としての思い

これまで、平成27年の「こんな寿台ならいいのに」というアンケートの掘り起こしや、「ここがもっとこうなら」という住人とのお話から課題を見つけて来ました。住人の声はどれも「私たちの住む寿台を良くしたい」という思いなのだと感じました。これからも地区住民の話を聞き、一つでも多くの課題の解決が出来ればと思います。

住み慣れた町で、笑顔で暮らしていけるよう、多くの人々が賛同し集まれるよう、地区に声をかけ続けていきたいと思っています。

寿台地区 地区生活支援員 水口みどり

里山辺地区

■世帯数：5,387世帯 ■人口：11,955人 ■高齢化率：27%
■町会数：16町会 ■町内公民館：16町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 人口が1000人を超える町会と、100人程度の町会がある
- 古くから住む住民と新しく家を建てた住民が混在する町会があり、大きい町会は関わりが希薄化
- 町会公民館が16町会全部にある
- 住民の集まれる場がほぼ町会公民館だが、サークル・サロンなど使用頻度に差がある
- 町会単位での活動が多く、町会会食会や自主ふれ健などを行っている



介護予防で元気な地域づくり

1 背景・課題

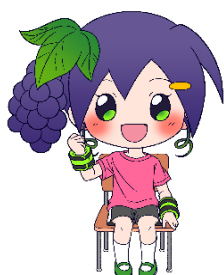
- 後期高齢になると、運動習慣が少なく運動機能低下の方が多い
- 1年間の転倒がある者が多く、介護状態につながりやすい
- 何かをやるのに町会や役員に依存の傾向が強い
- 自主ふれ健、サロンなど同じ参加者が多い

2 主なかかわり・支援内容

介護予防（通いの場）としての「いきいき百歳体操」の推進、立ち上げの支援

自主的な活動を支援します

- 町会長、民生委員に地区の課題を報告し、現状を知ってもらう。
- 体験会を開き「いきいき百歳体操」はどんなものかを住民に知ってもらう。
- 体験者から「いきいき百歳体操」を町会公民館で行いたいと相談を受け、健康づくり課に申し込む。
- 開始後も定期的に参加し、情報交換を行い関係機関と連携し支援を行う。



いきいき百歳体操とは・・・

おもりを使用した筋力トレーニングです。DVDを観ながら行うので体力に自信のない方、初めての方、どなたでもできます。

3 成果と効果

- 7カ所の公民館で「いきいき百歳体操」の立ち上げ支援ができた
- 後期高齢者が介護状態になりにくい運動習慣の推進につながった
- 住民同士のつながりの場づくりができた
- 通いの場を作り、顔を合わせて安否確認ができる仕組みづくりができた

杖が無くても歩けるようになったよ！



家でやろうと思ってもなかなかできない。集まって一緒にできるので続けることができる

毎週やっていると筋力アップを実感する！休むと調子悪いよ

4 今後の取組み・展望

- 他の町会公民館での「いきいき百歳体操」の推進支援
- 児童の登下校、近所の高齢者に目を配る「地域見守り隊」の活動支援
- 助け合える関係づくりの支援



体操の後のおしゃべりが楽しい

地区生活支援員としての思い

介護予防と、町会公民館が通いの場になればとの思いで「いきいき百歳体操」の推進、支援をしてきました。元々、運動習慣がある者が少なかった地区だったので調子がいいと感じる人も多く、さらに町会公民館が住民同士のおしゃべりや情報交換の場にもなりました。また「こんな事があったらいいな」「こんな事で困っている」などから支え合いの活動や住民同士の繋がりへと、助け合える関係づくりの支援ができたと思います。ただ、生活支援が多岐にわたり日々難しさを実感しています。これからも地区に出て沢山の方と関わりが持てたらと思います。



地区生活支援員
さとちゃん

里山辺地区 地区生活支援員 野澤好子

四賀地区

■世帯数：1,900世帯 ■人口：4,300人 ■高齢化率：44%
■町会数：27町会 ■町内公民館：27町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 隣近所の付き合いが現在も残っており、見守りや支え合いが自然と行われている
- 高齢者の運転・通院・買い物などの生活上の課題がある
- 子育て世代の市街地への流出により、高齢世帯（夫婦、単身）や日中独居など課題がある世帯が増加している



高齢者や障がい者の生活支援

1 背景・課題

- ①令和元年6月に地区唯一のスーパー（送迎サービス有り）が閉店になり、車の運転ができない高齢者などの買い物に困る方が増えた
- ②視覚障害の方の通勤時の送り迎え（自宅からバス停まで）を家族が行っていたが、家族が高齢になり困難となってきた

2 主なかわり・支援内容

- ①地域支援ガイドブック作成(地元の店舗・民間宅配業者・移動手段などの紹介)
 - ・「地区住民の買い物等のニーズ」と「地区の商店など地域資源」の調査を実施
 - ・協議体に地区の現状を報告し、地域資源ガイドブック「四賀思いやり手帳」を作成。
 - ・作成したガイドブックを民生児童委員を通じて高齢者宅に配布し、買い物支援につなげた。
- ②安心通勤見守り隊発足（関係者と協力して以下のサポート体制を構築）
 - ・乗車時の運転手さん、小学生の声かけサポート
 - ・バス利用者による声掛け誘導サポート
 - ・ボランティアやバス停近くの喫茶店主、近隣住民、民生委員、社協、行政が協力しての見守り支援
 - また、行政の協力により危険個所にアーチが設置された

四賀おもいやり手帳

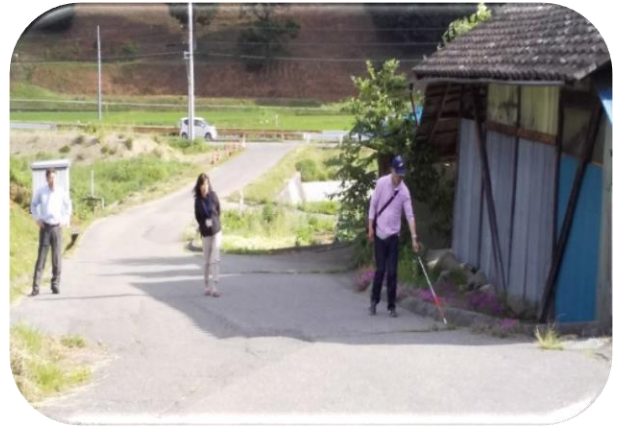
あんじゃねえ



四賀地区地域づくり協議会

3 成果と効果

- ① 宅配業者や地区の商店の特徴を理解して買い物ができるようになった。買い物だけでなく地区の地域資源を住民へ周知できた。
- ② 本人の思い（親が元気な内に自立して安心させたい、自分でできることは頑張りたい）を実現できた。また、支援の輪が広がったことで、今後の地域での支え合い活動への展開の可能性を確認できた。



4 今後の取組み・展望

- 令和2年の7月より移動スーパーが地区内に入り便利になりましたが、不便を感じるている高齢者のニーズを地域の方々と一緒に検討
- 通勤見守り隊の支援の輪も継続して広げていくとともに、今回の事例を高齢者の見守り活動にも活用できるように検討
- 住民主体の通いの場の継続支援と新たな掘り起し

地区生活支援員としての思い

「住み慣れた地域で誰もが住み続けられる事を目指した仕組みづくり」を目標に地区生活支援員の活動が始まりました。活動の一步として、まずは地域に出掛け、色々な人と話をし、顔を覚えて頂くことからスタートしました。

隣近所の付き合いや支え合いが自然と行われている地域ですが、高齢化が進み不便を感じる高齢者が増えています。

住民の皆さんとの話の中で「地域に暮らす人の思いを知り」「知り合いを増やし」「顔の見える関係づくり」が大切だと感じています。

今年で2年目に入りましたが地域のニーズを拾いきれてはいません。引き続き住民の皆さんに寄り添い「困った」が言える関係づくりを大切に活動していきたいと思えます。

(四賀地区の情報交流を目的とした掲示板です)



四賀地区 地区生活支援員 市川洋子

梓川地区

■世帯数：4,700世帯 ■人口：12,554人 ■高齢化率：27%
■町会数：28町会 ■町内公民館：21町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 平成17年4月1日に松本市に編入（以前は梓川村）
- 地区内の地域特性の違いが大きく、おおむね3ブロックに分けられる
 - ①「中山間地」②「農村と住宅分譲地の混在地区」
 - ③「農村と商工業地と住宅分譲地の混在地区」
- 地区の大きさは東西12km・南北6km
- 人口の少ない梓地区に「支所・公民館・ひろば」がある



地域の人々が気楽に集える居場所を拡充させよう

1 背景・課題

- 梓川地区のJAGES分析結果から以下の特徴が見えてきた
 - ・地区全体のうつ割合が高く、男性の閉じこもりの割合も高い
 - ・地域のサポートが豊かで、グループ活動への参加意欲を持った高齢者が多い
- そこで地域の人々が気軽に集える場所を拡充することで課題解決に結びつける

2 主なかわり・支援内容

- 各町会のサロン立ち上げの支援
- まちづくり協議会や福祉ひろば等と連携して「男性の健康講座」を毎月開催
- 町会サロンの情報交換の場「第一回サロンなんでも寄合所」を開催

3 成果と効果

- 今年度新たに2町会がサロンを立ち上げることができた。
- 健康講座に参加して元気な高齢男性が増えたと感じている。
- サロンなんでも寄合所では、地区内のサロン仲間が一堂に会し交流・情報交換ができた。そして益々活発な活動につながる為のヒントを得たり、活動意欲を増すよい機会となった。





4 今後の取組み・展望

- 各町会サロンにできるだけ参加しいろいろな情報を得る
- サロンを継続するための悩み等を聞き相談にのっていきたい
- 「第二回サロンなんでも寄合所」の開催

地区生活支援員としての思い

自分一人では何もできないので、色々な人と話をし、地域の中に知り合いを増やし、顔のみえる関係を目指していきたいと思います。

地区生活支援員の仕事は、時間をかけてじっくりと取り組む事が大切と言われてるので、地域に暮らす人の思いを知り、自分の価値観に当てはめるのではなく、本人の気持ちやニーズを大切に一緒に考え、一人で抱え込まず相談相手を見つけることが必要と考えます。

多くの人と関わり、仲間作りが活動の後ろ盾となると思っています。
又これまでこの仕事を続けられたのは、心強い地区生活支援員の仲間のおかげで、心より感謝しています。

梓川地区 地区生活支援員 根本浩子

波田地区

■世帯数：6,221世帯 ■人口：15,634人 ■高齢化率：29.5%
■町会数：27町会 ■町内公民館：24町会 (R2.10.1現在)

【地区の特徴】

- 平成22年松本市と合併
- 面積 東西12km 南北15kmと広く、人口も多い。
- 65歳以上の高齢者は一番多い地区となっているが、要支援・要介護の割合は14.5%と低く元気な高齢者が多い地区でもある
- 町会ごとに成り立ちの違いがあり、それぞれ特色がある



世代間交流を通して刺激し合う関係づくり

1 背景・課題

平成30年度、令和元年度と5町会でワークショップを行い、「つながり」、「困りごと」をだしてもらったところ、どの町会からも「近所つながりが希薄になってきている」「世代間交流が少なく若い世代を知らない」との意見がでた。今後、地域でどのように助け合っていくか、地域のつながりをどのようにつくっていくかが課題である。

また、地元の梓川高校と、お互い刺激し合う交流会ができないかと検討していたところ、西部包括支援センターを通して、梓川高校教諭から「授業の一環として地域と交流したい」という相談があった。

2 主なかわり・支援内容

●【地域と梓川高校の交流会】の開催

- ・認知症かるた大会
- ・65歳～人生すごろく(高校生自作)
- ・茶話会

- ①梓川高校教諭と打合せや日程等の調整
- ②開催に向け、先生、生徒代表、関係職員と5回打合せ
- ③地域の団体に参加のお願いと茶話会の準備



3 成果と効果



地域の参加者からは、「若い人との交流は刺激になり最近の集会にはない交流会ができ、大変楽しかった」「継続してほしい」高校生からは、「経験豊富な高齢者の方々とお話しすることができ、学ぶことが沢山あった。自分達より元気で生き生きしている姿を見て、将来自分もそのように元気で生活したい」等の感想があり、お互い刺激し合い、良い交流会となった。

4 今後の取組み・展望

- 引き続き高校関係者と意見交換を行い、交流会の継続をしていく
- 今後は地域の様々な場での交流を検討していきたい
- 地区（町会）の課題と、どのような町会にしていきたいかという思いを関係者から聞きとり。もしくはアンケートを行い把握する
- 地域住民と意見交換を行い、今後地域の支え合い・通いの場の設立に繋げていきたい

地区生活支援員としての思い

波田地区は20年前から地区社協が立ち上げた「町会サロン(デイホーム)」があり、現在327名のボランティアの方が運営を担っています。地域の財産でもありその歴史や思いを大事にしながら、若者の視点(梓川高校生等)から地域の交流の場ができないか検討してきました。子供から高齢者まで世代を超えたつながりができ、10年、20年、30年と住民同士の支え合いが続いていくような地域になればと思います。これからもっと多くの方々と関わり、地域の方の気持ちや思いを聞きながら、『つながり』と『笑顔』を大切に一步ずつ前に進んでいけたらと思います。そしてこの仕事を通して、私自身が地域の方々や地区生活支援員の仲間・関係職員の皆様に支えて頂いているのだと感謝しています。



波田地区 地区生活支援員 中條英子

地区生活支援員配置 16 地区

◆令和元年度配置(配置場所は、各地区地域づくりセンター内)

| 地区名 | 住 所 | 電話番号 |
|-------|------------|---------|
| 第二地区 | 本庄 2-3-23 | 39-3601 |
| 中央地区 | 大手 3-8-1 | 39-5711 |
| 寿台地区 | 寿豊丘 649-1 | 58-6561 |
| 里山辺地区 | 里山辺 2930-1 | 32-1077 |
| 四賀地区 | 会田 1001-1 | 64-3111 |
| 梓川地区 | 梓川梓 2288-3 | 78-3000 |
| 波田地区 | 波田 4417-1 | 92-3001 |

◆令和2年度配置

| | | |
|------|-------------|---------|
| 城北地区 | 開智 2-3-39 | 38-0120 |
| 白板地区 | 城西 1-6-17-3 | 35-7740 |
| 庄内地区 | 出川 1-5-9 | 24-1811 |
| 松南地区 | 芳野 4-1 | 26-1083 |
| 和田地区 | 和田 2240-31 | 48-5445 |
| 笹賀地区 | 笹賀 2929 | 58-2046 |
| 寿地区 | 寿豊丘 424 | 58-2038 |
| 本郷地区 | 浅間温泉 2-9-1 | 46-1500 |
| 松原地区 | 松原 39-1 | 57-2322 |

令和元年度
松本市地区生活支援員活動事例集



動画も見
てね!

松本市地区生活支援員活動紹介

検索

発行・編集 社会福祉法人松本市社会福祉協議会 生活福祉課 事例集編集委員
〒390-0833 松本市双葉4番16号 松本市総合社会福祉センター内
電話:0263-27-2232 e-mail:seikatsu@syakyo-matsumoto.or.jp

